



楓の誉

R5.4.6.2(第2号)
文責：瀧上 佳宏

夢の根っこを育てる

六月に入りました。既に九州北部は梅雨入り宣言が出され、雨模様蒸し暑い日々が続いています。「六月病」という言葉があるように、体調を崩しやすい時期でもあります。生徒たちも教職員もしっかり体調管理をしながら、前期中間テストや中体連夏季大会等へ向け、頑張つてほしいと思っています。

ところで先日、佐賀県の鳥栖西中学校との生徒会の交流(第一回)を実施しました。既に本校HPに掲載していますので、詳細はそちらをご覧くださいと思います。交流のきっかけは、鳥栖西中の 森 忠親 校長先生(本年度は佐賀県教育庁へ異動)が、本校のICT活用に関心を持たれ、同校の先生を本校へ視察派遣されたことです。森 校長先生は、私(校長)と同じく専門が社会科で、同じく教諭時代にICTを活用した授業実践に取り組んできたこと、さらに同じく教育行政の経験があることなどから、すっかり意気投合し、トントン拍子で、オンラインを活用した交流をやってみようという話に進みました。

鳥栖西中のHPを見ると、トップ画面に「西中一心く夢の根っこを育てる」という学校教育目標が目に見えび込んできます。「夢の根っこ」としても素敵な言葉だと思えます。本校の教育目標は「夢と誇りを持ち：：」です。合志市の「志合わせて夢実現プロジェクト」、熊本県の教育振興基本計画「くまもと

『夢への架け橋』教育プラン」と、「夢」という言葉はたくさん使われていますが、根をしっかりと張っていない夢は、「絵に描いた餅」になりかねません。鳥栖西中がそういう視点を大事に教育活動に取り組まれていることに、敬意を表したいと思います。

話は少し変わりますが、私は園芸(もはや農業)が趣味なので、「根」と聞いて一番に思い出すのは「カリ」。肥料の三大要素であるチツソ(N)・リンサン(P)・カリ(K)のカリです。カリは根肥とも呼ばれ、根の成長を促し、植物の株全体を丈夫にする働きがあります。つまり、根が強くなれば、当然良い結果につながるのですが、根は地面の中で見えません。肥料が足りているか否かの判断には、専門的知識や経験が必要です。

一方、茎や葉に効くのはチツソです。株を大きく育てたい、早く育てたいと思うと、ついチツソを余計に与えてしまいます。これを子育てに例えると、家庭ではどうしてもチツソをたくさん与えてしまいがちな気がします。もちろん我が子への愛情と期待ゆえなので、気持ちが分らないではないですが、チツソ過多の植物は、病気にかかりやすく、害虫もたくさん寄ってくるものです。

そう考えると、学校は、その専門性や経験を生かし、カリにあたる指導や支援をする(根っこを育てる)のが、大事な役割になってくるのかもかもしれません。また、リンサンを本当に効かせるべきは、花を咲かせたりや実を成らせた後には進路選択(受験)も控えています。そんな時には、速効性のある液肥でリンサンを与えるのも有りかなと思っています。

熱き青春を感じたね(体育大会)

五月二十日(土)、晴れやかな五月の青空の下、第二回体育大会が開催されました。こちらも詳細は本校HPに掲載しています

ので、ご覧頂ければ幸いです。合志楓の森中の歴史にまた新たなページが刻まれ、本校のさらなる発展につながる大成功の体育大会になったことを、私はとても嬉しく、また誇らしく感じています。

特に三年生の頑張りは、目を見張るものがありました。三年生は、新型コロナの第一波、第二波の先行き不透明で、最も不安が大きかった時期に小学校六年生でした。様々な行事や活動で中止や制限があったことは、少なからずマイナスの影響を受けているだろうと推測しています。事実、昨年度の県学力学習状況調査のiチエックにおいても、この学年は「自己肯定感」の項目に課題が見られていました。もともと自分たちに自信を持っていいのに、それを認めてもらう機会が、他の学年に比べ少なかったのです。だからこそ素晴らしい実績を残してくれた三年生を、「よくやった!」と褒めてあげたい気持ちになります。

大会テーマである「自由な熱き青春」を、三年生はもちろん、多くの本校生徒が感じたものと思います。合唱コンクールが、とても楽しみなようになってきました。



体育大会の閉会式から



学校HPの
QRコード